

参考資料 2

那須御用邸の動植物相調査について

1 経緯

天皇皇后両陛下が平成 8 年 7 月に栃木県立博物館をご視察された折、那須御用邸用地内の動植物について正確な記録を残し、その後の経年変化などを把握することが重要とのお気持ちを示された。

当時、栃木県立博物館では、県内の自然実態把握のために那須地域を調査対象に「自然総合学術調査」を実施していたが、天皇陛下の先のお気持ちが発端となり、平成 9 年度から同 13 年度にかけての 5 か年計画で本調査が実現した。

2 調査概要等

栃木県立博物館では、上記「自然総合学術調査」の一環として植物及び動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫、土壌動物）調査を行った。

主要な調査対象地域は、那須御用邸用地内の嚶鳴亭付近、澄空亭付近及び清森亭付近である。

調査は、栃木県立博物館の研究員に加え、鳥類の調査を財団法人山階鳥類研究所が行い、資料の同定を多くの専門研究者が行うなど、様々な人々の協力の下に実施された。

3 調査結果

調査は、那須御用邸用地内の 3 か所を中心に行ったごく限られた地域的なものであったが、どの分野においても新たな発見があり、新知見がみられた。

具体的には、3492 種の生物種が確認された（内訳：動物 2229 種、植物 908 種、菌類 355 種）。その中には、未記載種 23 種、日本初記録種 25 種、栃木県初記録種 69 種などが含まれている。

なお、この調査は、将来の環境変動に伴う動植物相変化を知る上で貴重な資料となり、自然との共生や自然環境の復元、そして環境管理計画などに必要なデータの一部を構成することになる。

4 その他

調査結果は、栃木県立博物館研究報告書「那須御用邸の動植物相」として発刊され、各研究機関等に配布された。

また、同博物館により平成 15 年 6 月から第二期調査が実施されている。調査地域は御用邸用地全域に及び、調査対象は植物と昆虫類である。第二期調査は、平成 19 年に終了の予定である。